

「食品機能と健康ビジョン研究会」報告書

「健康」の維持増進を目指した「食品機能」の総合戦略

ー研究プロジェクトの設立と健康表示制度の見直しの提言ー

平成 22 年 10 月

財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会

食品機能と健康ビジョン研究会

調査研究体制

【食品機能と健康ビジョン研究会 メンバー】

座長

清水 俊雄（名古屋文理大学 健康生活学部 フードビジネス学科 教授、
フレスコ・ジャパン有限公司 代表取締役）

委員

太田 明一（健康と食品懇話会 相談役、キリンホールディングス株式会社
健康・機能性食品事業推進プロジェクト アドバイザー）

木村 毅（健康と食品懇話会 会長、味の素株式会社 執行役員 研究開発企画部長）

斎場 仁（財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 理事）

玉川 淳（元 厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課新開発食品保健対策室長）

（50音順、敬称略、平成22年10月現在）

【食品機能と健康ビジョン研究会 事務局】

財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会

清水 浩一（業務推進部 次長）

多田 澄恵（業務推進部 健康食品グループ 学術主任）

蓑田 由紀子（業務推進部 健康食品グループ 学術主任）

吉岡 加奈子（業務推進部 健康食品グループ 学術主任）

Executive Summary

我が国は世界でも最も長寿な国の一つになったが、その理由として、医学の進歩と医療体制の整備に加え、食生活が飛躍的な改善を遂げたことが挙げられる。更に、健康を維持して長寿を目指すには、適切な食事と運動が重要である。一方、食品科学の分野では、最新の科学技術を駆使して、食品成分の機能性と安全性が解明されてきている。健康であることは、個人の人生を充実させるとともに、経済成長の基礎条件となり、増大する医療費の抑制に繋がり、社会保障負担を軽減する方向に作用する。

我が国は、機能性食品の系統的研究プロジェクトを世界に先駆けて立上げ、特定保健用食品制度の導入によって食品機能表示の制度化にいち早く取り組んだ結果、この分野の国際的なパイオニアとなったが、その後の科学技術の進歩は海外も含め著しいものがある。日本人の健康保持に適合した食品の開発、また、知識集約型産業として日本が世界に貢献し得る産業の再構築を産学官が力を併せて実施していくことが喫緊の課題である。

本研究会は、医学、栄養学、薬学を始めとして「食品機能」と「健康」の両分野に関連する有識者から幅広い課題について最新情報の収集を行うとともに、機能性食品に関わる企業を対象として実施したアンケートに基づき「食品機能と健康」に関するアンケート報告書を取りまとめた (http://www.shafuku.jp/healthyfood/pdf/shokuhin_kino.pdf)。更に、食品機能と健康の分野における研究開発に関する諸外国の動向を調査した結果も踏まえて、我が国が今後、具体的に取り組むべき研究開発プロジェクトの重点テーマを提言する。

これらの研究開発によって得られた科学的知見を、消費者に情報提供する手段のうち、最も影響力が大きいのは、食品に付された健康表示である。我が国では、特定保健用食品がその代表例であり、海外でも、健康表示の制度は確立しつつある。本報告書では、健康表示制度の国際比較を行い、期待される消費者への情報提供という観点を踏まえて、今後取り組むべき課題を示している。

なお、現在、法律で定義され、健康関連の表示が認められている特定保健用食品を含む特別用途食品、栄養機能食品と法律で定義されていないいわゆる健康食品とを包括する用語は、健康食品、「健康食品」、健康機能食品、健康志向食品など、多くの言葉が用いられているが、統一された用語が定まっていない。

本報告書においては、2009年に本研究会が実施したアンケートとその報告書に定義したと同様に、下記の注記(※)の通り、包括した用語として機能性食品の用語を用いることとした。

※注記：本報告書における機能性食品とは、下記を合わせたものを指す。

- 1) 特定保健用食品を含む特別用途食品
- 2) 栄養機能食品
- 3) いわゆる健康食品

第1章 国内外における関連研究プロジェクト

I. 関連研究プロジェクトの国家予算とその内容

機能性食品の研究は文部省（当時）特定研究の「食品機能の系統的解析と展開」として1984年に発足し、食品成分の吸収・代謝・生理機能を世界に先駆けて系統的に研究する画期的なものとなった。この特定研究により、多くの食品成分が健康保持、疾病の改善・予防

目次

調査研究体制	i
Executive summary	ii
目次	xiii
略語一覧	xv
本編	
はじめに	
—「健康」のための「食品機能」、「食品機能」を通じた「健康」—	1
第1章 国内外における関連研究プロジェクト	
I. 関連研究プロジェクトの国家予算とその内容	
1. はじめに	3
2. アメリカ合衆国 (US)	3
3. 欧州連合 (EU)	7
4. オセアニア	12
5. 日本	14
6. 今後の展望	15
II. 研究プロジェクトの提案	
1. 高齢者および胎児・乳幼児の栄養に関する研究	16
2. 和食長寿研究	17
3. 病態別スポーツ栄養に関する研究	21
4. ヒトにおける食薬相互作用の研究	22
5. 食品機能データベースの構築	24
6. 先端技術開発の推進	27
7. 食品機能の経済効果	32
第2章 健康表示制度の国際比較	
1. はじめに	35
2. コーデックス委員会	35
3. 欧州連合 (EU)	36
4. アメリカ合衆国 (US)	41
5. アジア	44
6. オセアニア	47
7. 日本	48
8. 今後の展望	51

第3章 日本の制度の問題点とあるべき姿	
1. 特定保健用食品	52
2. 栄養機能食品	54
3. いわゆる健康食品	55
おわりに	59

資料編

I. 食品機能と健康ビジョン研究会 専門家ヒアリング	
1. 専門家ヒアリング 実施リスト	61
2. 専門家ヒアリング 概要	62
II. 「食品機能と健康」に関するアンケート	
1. 「食品機能と健康」に関するアンケート報告書 要旨	70
2. 「食品機能と健康」に関するアンケート報告書より 一部抜粋	74

「食品機能と健康ビジョン研究会」報告書
「健康」の維持増進を目指した「食品機能」の総合戦略
—研究プロジェクトの設立と健康表示制度の見直しの提言—

平成 22 年 10 月

発行：財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会
食品機能と健康ビジョン研究会

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-5-11
第 11 東洋海事ビル 4 階
TEL: 03-3595-1555
FAX: 03-3595-1559

本報告書の全部又は一部を問わず、無断引用、転載を禁じます。